



RI第2750地区米山学友委員会では、米山奨学生と学友、ロータリアンの交流を図っております。3年前から、奨学生、学友、ロータリアンの京都研修旅行を行っております。仲田順和パスト・ガバナーのお取り計らいで、世界遺産の醍醐寺の見学をさせて頂いております。通常では見られない場所の視察、京都の歴史と文化、京都の社寺仏閣、京都の伝統文化、京都の紅葉、醍醐寺でのお茶会、念誦作り、写経、朝のお勤め、法話宿泊など充実した研修をしております。

クラブ所属の奨学生はクラブ内の交流は図れますが、他の奨学生、学友、ロータリアンとは、交流する機会が持てません。そこで、交流する機会を持つ為に、奨学会では、5年前から夏の懇親会(8月)、冬の懇親会(12月)を開催し、奨学生、学友、ロータリアンの交流をしております。合わせて毎回100名強の参加を頂いており、親睦を深めております。又研修旅行、懇親会に参加できなかった奨学生、学友、ロータリアン対象に一昨年6月より学友定例会と称し、月一回第2土曜日に成城クラブにおいて、奨学生、学友、ロータリアン合わせて、20名強の参加で開催されております。

今年、中心になっている米山学友は、ロータリーでお世話になった感謝の気持ちを思い、奉仕活動に盛んに意気込んで、米山学友の面々がキーになり新しいロータリークラブが誕生しそうです。誕生したら米山奨学会からは、初めてのクラブ誕生です。

第2750地区に於いて、巣立った学友がいます。2005年の奨学生でスーダン国籍のモハメド・オマル・アブディン氏です。彼は進行性難病の為、幼少期から徐々に視力を失い失明しました。彼が米山奨学生に応募し、選考試験を受けた時にまず面接官は苦慮しました。果たして、彼を迎えた場合、受け入れてくれるクラブがあるかどうかと。

面接した当時のロータリアン(東京国立白うめRC)が、彼のサポートを買って出ていただき、彼は米山奨学生になりました。当時彼は東京外国語大学在学でした。彼は失明にもかかわらず率先して米山奨学会の事業に、参加し活躍いたしました。彼はスーダンにおける視覚障害者の教育支援・社会参加を目指すNPO法人「スーダン障害者教育支援の会」を立ち上げ、点字セットやパソコン読み上げソフトの寄贈、ブラインドサッカー普及プロジェクトなどに、取り込んでいます。現在東京外国語大学大学院で平和構築・紛争予防を学んでいます。日本青年会議所主催「人間力大賞2008」受賞。

奨学生の国別で、見ますと中国出身が多く、昨年3月に中国に於いて、学友会が設立されました。いきさつとして、日本に留学して米山奨学生になるまでは、孤独感を感じていたが、カウンセラーや数々の行事、懇親会等でコミュニケーションがとれて、とても幸せを感じる事ができ、中国に帰ったら、浦島状態又孤独感を感じ、そこで中国内にいる、学友達に声をかけ日本に対する全員に共通する感謝の気持ちで、仲間に会い知っている日本を次世代に伝え、今後の日中友好を発展させるために、米山記念奨学会中国学友会が発足されました。学友会の例会での会話は、すべて日本語で行っております。

米山記念奨学事業は、平和の推進と国際親善を目的に、日本のロータリアンの、奉仕によって支えられてきたプログラムです。これまでに約120カ国、地域出身の15,000人を超える外国人留学生を支援しています。奨学事業の成果は、学友の活躍にあり、母国に戻りその発展に尽くす人、母国と日本との架け橋として活躍する人、世界平和国際理解推進のために貢献する人など、米山学友は世界を舞台にさまざまな活躍をしています。

